

海外ビジネスに奮闘する人たちにエールを

日本が世界で存在感を取り戻すために大事なことは。

豊富な海外ビジネス経験をもち、今も数多くの海外赴任前研修や講演会などで講師を務める平沢健一さんに、新刊書『これからのグローバルビジネスの教科書』に込めた思いを語ってもらった。

G&C(グローバル&チャイナ)ビジネスコンサルタント
代表 平沢健一さん

——平沢さんは米国、欧州、中国の現地法人経営に20年間携わったほか、56カ国をビジネスで訪れたという国際人だ。だが、入社して最初の13年間は国内担当の営業社員として、北海道から沖縄まで駆け巡る日々を送っていた。

日本全国に足を運びそれなりに苦勞もしてきたので、初めての海外とはいえ自信はありました。ところが、そんな甘いものではなかった。

1982年、全く英語ができないまま赴任前教育もなくニューヨークに赴任。最初の頃は言葉も通じず毎日^{しょうすい}がもがきと憔悴、まさに絶望からのスタートでした。でも、とにかく行動しようと決めて、アメリカ全土の拠点を1人で6カ月かけて回りました。行く先々で現地スタッフに積極的に話しかけようと心がけました。苦手意識を捨てて、文法無視でいい、恥はドンマイ、大きなジェスチャーを交えてとにかく話そう。すると、少しずつですが英語が分かり、通じるようになってきました。

アメリカでの経験がその後、イタリア、イギリス、そして中国でも大いに役立ったことは言うまでもありません。もちろん、だまされたり、脅されたり、金払いの悪い客に困らされたり。文化の衝突やけんかも。それでも、先輩から教わった「フランクに表現」「フランクに交流」を素直に実行してきたことで、どこでも大勢の

信頼できる友人ができました。

——10のCで始まる合言葉で世界に挑戦しようと訴える。10のCとは、①Crisis(Sense of Crisis、危機感)、②Culture(文化)、③Curiosity(好奇心)、④Creativity(創造性)、⑤Communication(コミュニケーション)、⑥Clearness(分かりやすさ)、⑦Courteousness(礼儀正しさ)、⑧Collaboration(協力)、⑨Confidence(自信)、⑩Change(変革)。いずれも世界でビジネスを行う上で不可欠だという。

「まるドメ」(まるでドメスティック)、つまり国内志向で海外嫌い、その上「ガラパゴス」、日本だけに通じる独自規格に安住しては、「ゆでガエル」になってしまうのです。徐々に温まる湯の中は居心地がいいけど、そのまま死んでしまう。中国はじめアジア新興国のビジネスパーソンは、危機感とハングリー精神が半端ではないと感じています。私たちに必要なのは、「まるドメ、ガラパゴス、ゆでガエルよさらば!」です。

その上で大事なことは、日本人の優れた財産を決して忘れてはならないということ。海外の友人たちと会うと、最近日本人は元気がなく自信をなくしていると言われます。私自身も長く海外生活をしてきただけに、静かになった日本が心配です。でも、日本人は礼儀正しさをはじめ10のCのうちの多くをすでに優れた財産と